



**森で過ごす一日**

冬の森は楽しい。殆どが落葉広葉樹のため、葉はすべて落ち、足下は葉っぱの絨毯で覆われる。子どもの顔の大きさほどあるホオノキの葉、ギザギザ葉っぱのコナラ、クヌグ、深紅のヤマザクラの葉を「ザクザク」と音を立てながら踏みしめ、分け歩きながら進む。落ち葉の更には秋の忘れ物のドングリ、エゴノキ、ヒノキの実などを見つけ拾い集める。林道の脇には鮮やかな黄緑色のウスタビガの繭、カマキリの卵、オニドコロが子どもの興味を誘う。葉の落ちた森には光が差し込み、太陽の暖かさを感じながら快適に歩ける。空を仰げば鳥が枝を渡り行くのが見え、さえずる歌声が聞こえる。



この冬は、年中・年長さんを中心に、週に1度ほど隣接の森に入り過ごす時間を設けています。1日に1~2クラスほど、園長と一緒に森を歩き、森で遊びます。朝の自由遊びが一段落する頃から1時間から2時間ですが、夢中で遊ぶあまり、帰ってきたらお昼・・・なんてこともあります。

「野ウサギの門」から森に入ると「今日はどこにいこうか？」と子ども達と相談しながら森に入っていきます。最近のお気に入り「森一周コース」。休日には是非、親子で歩いて頂きたい、冒険心をくすぐる素敵なコースです。

山道を奥に進んでいくと、地元の方が施して下さった、芸術的なまでに美しく仕上げた土階段や、水はけを良くするための土掘り側溝にお目にかかります。山の篠竹を刈り、道を作っていく、いわゆる「トレイルカッター」と呼ばれる方々のお陰です。最近のご年配の方が趣味として山道作りの作業をされている光景に出会います。子ども達が歩く様子を微笑ましく見守って下さります。有り難い。



丸太橋 アナグマ 篠竹のトンネル 土階段 「御殿峠古窯群跡」

さらに進むとワクワクする空間が広がります。お化けのような篠竹のトンネルをくぐり、タヌキやアナグマ（イタチ科の可愛い動物）の巣穴を横目に、わき水の流れる小川の丸太橋を恐る恐る渡ります。こうして、トトロが出てくるのではと思うほど幻想的な風景を通り抜けると、やがて横浜線の線路が見え、山の反対側、町田市の里地が広がります。平安時代に国内最多の窯があった「御殿峠古窯群跡」を通ると、広々とした草広場に出ます。ここでしばらく遊び、帰りは西側の山道を登り、幼稚園の「てっぺんひろば」に戻ります。

こうした「森のようちえん」の活動を繰り返していくと、子ども達もただ歩くだけで無く、普段気づくことの無かった小さな自然の変化に気づき、多くの発見をするようになります。年長にもなれば帰る頃には手に持ちきれないほどの「お土産」を持って帰ってきます。そして、それ以上に心にはもっと大きなお土産を持ち帰ってきます。大人もそうですが、子どもも、森の中で過ごす心満たされ癒やされるものです。普段、些細な事で落ち込んだり、悩んだりすることが、どれほど「大したことではない」かを感じさせてくれます。今の子ども達は、かつて私たち大人が過ごした幼少期よりずっと生きにくい環境で過ごしています。たくさんの大人の目に見守られていることで安心感を得る一方、いつでも大人から監視されている状況にあるとも言えます。大人の目を常に気にしながら過ごすことは子ども本来の発達にとって望ましいことではありません。子どもには子どもの世界があります。ある程度の事であれば自分たちで考え、乗り越えていく性質を備えています。大人は子どもの本来持つ力を信じ、見守り、子どもだけで解決できない部分を、陰でそっと支えてあげることが肝心です。大人と子どもの「距離感をはかる」・・・子育てや教育で一番大切で、一番難しいところですね。

「自然は教師10人分の教育力に相当する」と言われますが、森はYURIKAGOの子ども達にとって大きな大きな「先生」であると言えるでしょう。



恵みを与えてくれる森。  
 気づきを与えてくれる森。  
 心を満たしてくれる森。



子どもの力を信じること。  
 子ども同士の力を信じること。  
 子どもたちの世界を信じること。

森はたくさんのことを教えてくれます。

**正月遊び** 園庭では1月ならではのお正月遊びを楽しんでいます。凧揚げ、こままわし、羽根つき、けん玉、竹とんぼ、だるま落とし、ヨーヨー、福笑い…。特に、広い園庭を凧糸片手に走り回る姿は微笑ましいものです。凧が落ちないように、ひたすら前を向いて走り続けるので、飛んでいる凧を見る事は殆どできないのです。しかし、手の感覚、周囲の歓声から、空高く飛んでいることを想像して喜びを感じるのです。「日本の昔遊び」は単純ですが非常に奥深い遊びです。1月に限らず継続して楽しみたい遊びです。



凧揚げ                      コマ                      山本先生とコマ!                      カルタ



だるま落とし                      福笑い                      けん玉                      羽根つき

**もちつき会**

日本の伝統行事でもある「もちつき」。幼稚園では昔から伝わる方法で、もちつきを行っています。お正月にお餅を食べることは普段食べないものを食べることで、気持ちを切り替えるという意味があるそうです。また神様にお供えした野菜や餅をお雑煮にしてたべることで、「神様からパワーをいただく」という意味もあるそうです。幼稚園では無事に年を越せたことに感謝し、また素敵な1年になることを祈念してお餅つきを行いました。

ところで、今年はノロウイルスなどが感染力を増し、幼稚園によって取り組みも様々でした。餅つきをやめる幼稚園、ついたお餅は食べずに処分し業者が納品したお餅を食べるといふ園、お汁粉やお雑煮にして食べる園など…。

当園でも様々な方法を検討しましたが、やはり、見せかけではない本物の伝統文化・食文化を、体験を通して子ども達に伝えていきたいという思いから、衛生管理をいつも以上に徹底して行いました。時間も神経も例年以上に使いましたが、無事に楽しく餅つきを行うことができ安堵しております。



大豆を石臼で挽いてきな粉に。 男の先生、担任の先生、皆でつきました!



だんだん伸びてきたよ! 子ども達も頑張ってたきました! 美味しかったね!

**年長 自由保育参観から ~アクティブラーニング~**

全学年、自由保育参観に大勢の保護者の皆さまにお越しいただき、有り難うございました。全学年紹介できませんので、年長さんの当日の活動を紹介します。平成30年に幼稚園教育要領が改訂されますが、その大きな柱となる「アクティブラーニング」の活動の一端をご覧頂きました。子どもたちが身近な事象に興味や関心を持ち、課題に対し主体的に考え、取り組み、学びに繋げていく教育方法です。小・中・高・大学においても導入されていきます。

今回のテーマは、「ムササビ」です。夜になると園内の森の広場の木の上に遊びに来て、木の葉や実を食べていくかわいい野生動物です。(ライブラリーカフェに剥製があります。ファミリーキャンプで何人かの親子で観察できましたね)

子ども達はこのムササビに興味を持ち、秋には多摩森林科学園に出かけ、実際にムササビが棲む森と巣箱を観察してきました。幼稚園に遊びに来るムササビのために、園内にも巣箱を設置しようということになり、今回の参観では、ムササビ博士の岡崎先生にお越し頂き、ムササビに関する様々な知識を得、実際にムササビを見せて頂き、その可愛らしい眼差しに一層愛着がわくようになりました。

お話を聞いた後は各クラスでグループ毎に「ムササビについて分かったことや疑問など」を話し合い、発表し、ポスターにまとめました。このポスターをテラスに貼り、年長全体、更に年少・年中にも共有していき、Yurikagoのみんなでムササビに関心を持っていくことになりました。今後、実際にムササビの巣箱を年長さんが作り、森の広場に設置し、今後の観察に繋げていきます。

こうした一連の活動は「お米作り」のように長期にわたって行われていきますが、その過程において子ども達が主体的に取り組むことで、幼児期に必要な、「心情、意欲、態度」に集約される多くの学びを得ていくことができます。そして小学校に向けた土台が形成されていきます。



講演の看板も書いて、、、岡崎先生から50分間お話しを聞いて、、、ムササビのグルルに出会い、



振り返り、話し合い、発表し合い、「ムササビ図鑑」を作りました。